

様式 6

平成18年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 研究集会
2. 課題番号または共同利用コード 2006-W-1
3. 研究課題(集会)名 和文：地殻変動連続観測の未来  
英文：Future of the continuous crustal movement research
4. 研究期間 平成18年 9月20日 ~ 平成18年 9月22日
5. 研究場所 京都大学百周年時計台記念館
6. 研究代表者所属・氏名 京都大学防災研究所・川崎一朗  
(地震研究所担当教員名) 加藤照之
7. 共同研究者・参加者名(別紙可)

共同研究者名	所属・職名	備考
(別紙参照)		

8. 研究実績報告(成果)(別紙にて約1,000字A4版(縦長)横書)(別紙に作成)  
(別紙参照)

10. 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)  
日本測地学会誌, 2006, 第4号, [特集: 測地・地殻変動に関する研究集会(第1部)]  
日本測地学会誌, 2007, 第1号, [特集: 測地・地殻変動に関する研究集会(第1部続き)]  
日本測地学会誌, 2007, 第2号, [特集: 測地・地殻変動に関する研究集会(第2部前半)]  
日本測地学会誌, 2007, 第3号, [特集: 測地・地殻変動に関する研究集会(第2部後半)]

## 研究実績報告

本共同利用経費により2006年9月20-22日の3日間「測地・地殻変動に関する研究集会」が京都大学百周年時計台記念館において開催された。

最近地殻変動研究を巡る動きが急である。この動きにはポジティブな側面とネガティブな側面がある。ポジティブな側面ではGPS観測網の展開とそれに基づくスローイベントなど地球科学における革新的な展開、ALOSの打ち上げによるInSARの新たな展開、またGRACE衛星によるグローバル観測の展開など、主として宇宙技術に基づく新たな地球科学の展開に代表される。一方、ネガティブな側面では国立大学が地震予知の国家事業に基づいて長い間実施してきたひずみ・傾斜観測などいわゆる連続観測に多くの批判が寄せられ、今後の継続的観測が危ぶまれる事態となっていることがあげられる。

こうしたポジティブな側面とネガティブな側面を、関係者が一同に会して討議することにより日本の地殻変動研究に関する将来の新たな地平を切り拓こうとして実施したのが上記の研究集会である。振り返ってみればこのような地殻変動の研究集会を実施したこと自体かなり久しぶりのことである。日本は地殻変動研究で世界の先端を走っていると自負できるであろう。しかしながら、重要なことは「日本の地殻変動研究が常に世界の先端を走るためには、関係者のたゆまぬ努力で、常に現状を批判し、真摯な議論を積み重ねていかななくてはならない」ということである。本研究集会の意義の一つの側面は、これまでの観測研究を総括するということであるが、本研究集会を行ったからそれで十分ということでは決してないとは言ってもない。3日間の講演会は、振り返ってみれば大変多彩な分野からの講演が網羅されていたが、その一方で十分な討議の時間がとれなかったことは否めない事実である。今後さらに同種のあるいは異なる立場からの様々な討論会が催されることで議論が深まり、日本の地殻変動研究が新たな展開を見せはじめることを願ってやまない。そのために本特集号が役立って欲しいと切に願っている。

最後に、本研究集会のために米国より参加して基調講演を行ってくださったカリフォルニア大学サンディエゴ校のDuncan Agnew教授に感謝すると共に、講演会の成果を測地学会誌への特集号として刊行することを強く勧めてくださった測地学会編集委員長の藤本博巳東北大学教授、並びに編集に携わってくださった方々に深く感謝する次第である。

お名前	所属	役職 (学生は学年も記入)
加藤照之	東大地震研	教授
Duncan Agnew	UCSD	Professor
坪井洋	京大防災研	教授
橋本 亨	"	"
大谷 文夫	"	助手
佐藤 忠弘	NAOS	教授
大園 真子	名大・環境	学生 D1
白置 幸介	北大・理	教授
小沢 慎一郎	地理院	研究員
浅井 康元	東濃地電科学研	副主任研究員
古瀬 達馬	高大理	学生 学部4
松島 健	九州大学	助教授
山口 照寛	北大	技行職員
三品 正明	東北大	助教授
真鍋 盛二	国立元女大	教授
松本 良浩	海上保安庁	主任研究官
笠原 稔	北大	教授
大久保 修平	東大	"
有牙 美由	愛大	学生 B4
山本 淳平	高知大学	学部4年生

10

地震研究所研究集会「地殻変動連続観測の未来」(2006-W-01)  
 防災研究所研究集会「地殻変動連続観測研究の新たな展開」(18K-05)

氏名前	所属	役職 (学生は学年も記入)
川崎一弘	京大防災研	教授
福島洋	"	助手
森井互	"	"
東敏博	京大・理	"
加納靖之	京大防災研	PhD
太田雄策	名大環境	<del>院生</del> D2
柄賢大朗	高知大理	院生 M2
佐野修	京大・地震研	教授
石井泰右	東濃地震研	主任研究員
飯屋敦一	名大・環境	研究支援推進員
落唯史	京大地震研	M2
木岐文昭	名大	教授
高橋裕司	IC大	助手
小川涼子	北大理・地感	M2
山本剛靖	気象研究所	主任研究官
田中俊行	東濃地震科研	副主任研究員
田中直未	京大	名誉教授
長瀬沙矢佳	高知大理学部	単部生
宮崎真一	東大・地学研	助手
三浦哲	東大・地	助教

地震研究所研究集会「地殻変動連続観測の未来」(2006-W-01)  
 防災研究所研究集会「地殻変動連続観測研究の新たな展開」(18K-05)

お名前	所属	役職 (学生は学年も記入)
金井 伸久	防災研	助教
由井 智志	京都大学 理学部	M2
山本 聖香	"	D3
竹本 修三	京都大学	名誉教授
柴松 裕也	京都大学理学部	M1
田部井 隆雄	高知大理	教授
板場 智史	産総研	研究員
早河 秀章	京大理	研究員
里村 幹夫	静岡大-理	教授
10 田中 愛子	国土地理院	技官
伊良部 香穂	京大理	D2
石原 正人	中大震研	助手
原田 昌武	温泉地学研究所	技師
和田 安男	京大-防災研	技術員
加藤 復	京大-理	助手
宮城 洋介	北大理学部	PD
細 善信	京大防災研	技術員
片木 武	京大防災研	M1
辻 村 良明	国立天文台-水沢	研究員
小林 知勝	京大防災研	PD

地震研究所研究集会「地殻変動連続観測の未来」(2006-W-01)  
 防災研究所研究集会「地殻変動連続観測研究の新たな展開」(18K-05)

4/5

お名前	所属	役職 (学生は学年も記入)
小澤 拓	防災科研	研究員
寺石 通弘	京大防災研	助手
飯沼 卓史	東北大理	産学官連携研究員
馬場 俊孝	JAMSTEC	研究員
和田 弘人	国土地理院	教官
石川 栄大	名大環境	修士1年
鈴木 隆志	京大防災研	助手
畑中 雄樹	国土地理院	地殻調査官
坂藤 一敏	京大防災研	研究員
墨田 晴幸	〃	学生
9/20 山内 常佳	名大環境	助教
9/21 矢来 博司	国土地理院	主任研究官
新谷 昌人	京大地震研	助教
藤本 柳	東北大理	助教
鷲谷 威	名大環境	助教
小原 一成	防災科研	研究員
向井 厚克	奈良産大	助教
山本 凌平	高知大学	学務員
岡田 義光	防災科研	理事長

5/5

地震研究所研究集会「地殻変動連続観測の未来」(2006-W-01)  
 防災研究所研究集会「地殻変動連続観測研究の新たな展開」(18K-05)

お名前	所属	役職 (学生は学年も記入)
竹内文朗	京大. 防災研	防災研
行々 洋平	神奈川 強地研	研究員
梅田 康弘	京大 防災研	
一谷 祥瑞	高知大 理学研究科	博士前期 1年
片尾 浩	京大 防災研	
小園 素素	東大 地震研	
森下 保	生命館	M-2
大塚 成昭	神戸学院大	
尾上 謙介	京大 防災研	
9/22 重富 国康	存心	
内山 隆	東大 宇宙研	助手
天橋 正建	東大 宇宙研	
大石 万寿	防災研	
中村 経太郎	"	
渡辺 邦考	京大. 防災研	助教
三木 伸二	東大 宇宙研	助手

小園素素